

**株式会社 有田屋**

## **環境経営レポート**

対象期間:2023年4月1日~2024年3月31日

発行:2024年6月30日



## 目次

- 1.組織の概要 …2p
- 2.環境経営方針 …7p
- 3.環境経営目標 …8p
- 4.環境活動計画 …9p
- 5.環境目標の実績…10p
- 6.環境活動計画の取り組み結果と評価、次年度  
の取り組み…11p
- 7.緊急事態への準備、及び対応…13p
- 8.環境関連法規等の遵守状況の確認…14p
- 9.代表者による全体評価と見直しの結果…16p
- 10.情報公開項目等 …17p

# 1.組織の概要

## 【1】会社概要

株式会社有田屋

代表取締役 佐藤彰

### 所在地

本 社 岩手県北上市鍛冶町三丁目 2 番 47 号

鬼柳プラント 岩手県北上市鬼柳町上鬼柳 5 地割 35 番 1,37,54,55

稲瀬プラント 岩手県北上市稲瀬町福田地 55 番 4,56 番 2

鷹鳥羽プラント 岩手県北上市鬼柳町鷹鳥羽 117 番 2

### 環境管理責任者氏名及び連絡先

責任者 取締役 佐藤 功樹 TEL : 0197-64-6400

環境事務局 取締役 佐藤 功樹 TEL : 0197-64-6400

環境事務局 (補佐) 菊池 育子 TEL : 0197-64-6400

環境事務局 (補佐) 高橋 いづみ TEL : 0197-64-6400

### 事業内容

産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物中間処理

特別管理産業廃棄物(医療系廃棄物を含む)収集運搬、特別管理産業廃棄物中間処理

一般廃棄物収集運搬、一般廃棄物中間処理

ビル管理業務

### 事業規模

収集運搬量 2396.85 トン

中間処理量 3463.41 トン

中間処理後処分量 861.08 トン

一般廃棄物収集運搬量 2131.75 トン

従業員数(パート従業員含) 49 名(2024 年 3 月末日現在)

### 事業所の延床面積

本社 175 m<sup>2</sup>

鬼柳プラント 5624 m<sup>2</sup>

稲瀬プラント 2700 m<sup>2</sup>

鷹鳥羽プラント 1318 m<sup>2</sup>

### 法人設立年月日

昭和 49 年 2 月 10 日

資本金

1000 万円

事業年度:7 月～翌年 6 月

※産業廃棄物の収集運搬、処分の県への実績報告とデータを連動させるために、EA21 の年度を、4 月 1 日～翌年 3 月 31 日として取り組んでいる。

## 【2】対象範囲、レポートの対象期間

### (1)対象範囲

対象組織：本社、鬼柳プラント、稲瀬プラント、鷹鳥羽プラント

対象活動：

産業廃棄物の収集運搬、及び中間処分

特別管理産業廃棄物の収集運搬、及び中間処分

一般廃棄物の収集運搬、及び中間処分

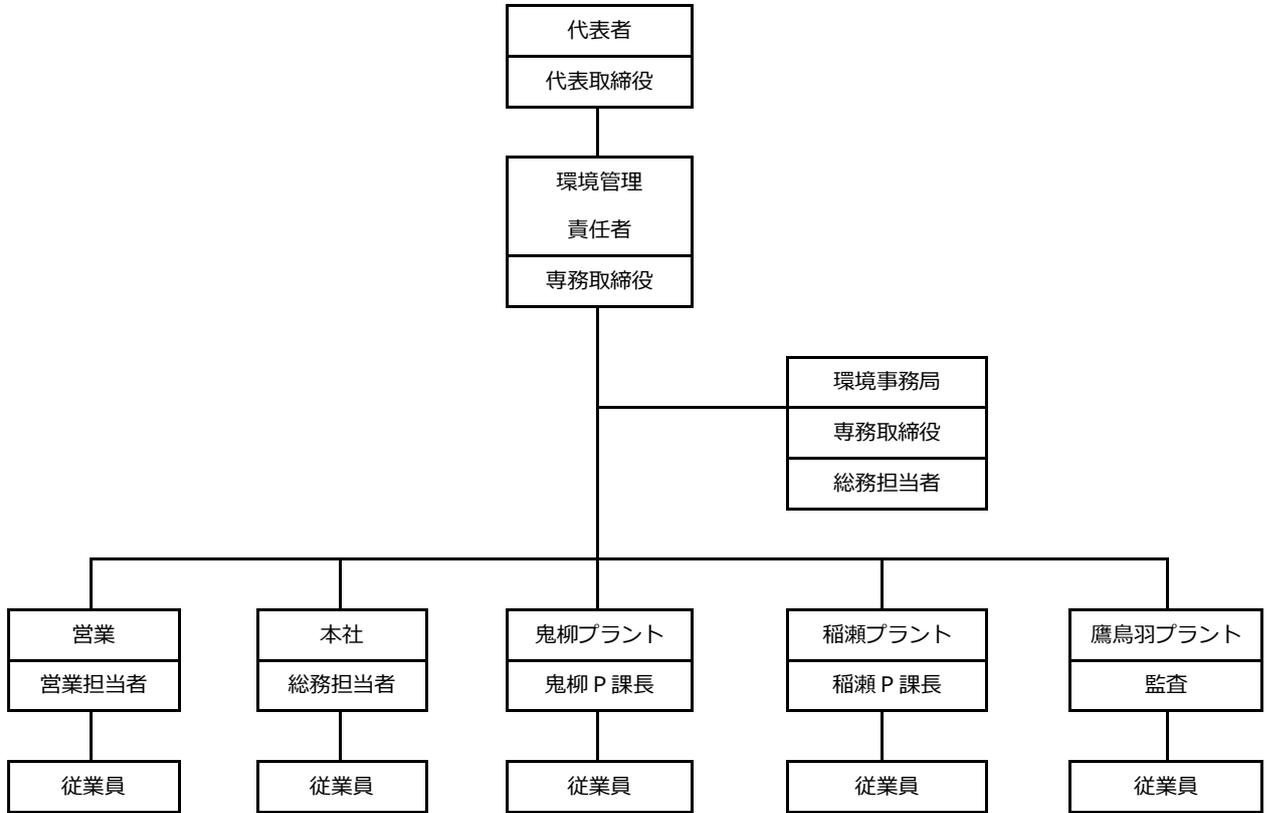
対象範囲の人員 49 人(2024 年 3 月末日現在)

### (2)レポートの対象期間及び発行日

1.レポート対象期間： 2023 年 4 月 ～ 2024 年 3 月

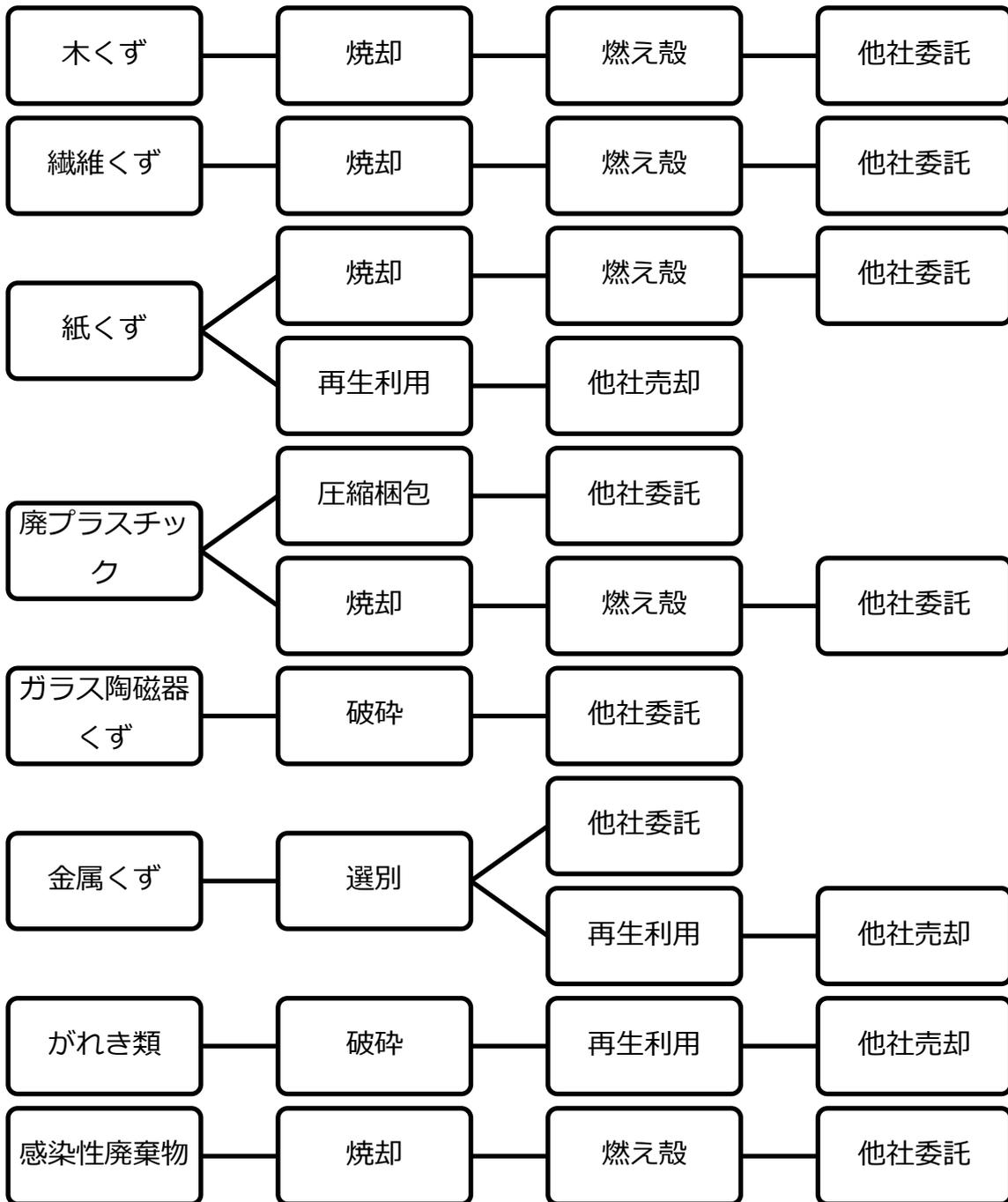
2.発行日： 2024 年 6 月 30 日

【3】 実施体制



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> <li>・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

【4】 処理工程図



## 2.環境経営方針

### 基本理念

株式会社有田屋は岩手県北上市に位置し、鬼柳プラント、稲瀬プラント及び、鷹鳥羽プラントにおいて、産業廃棄物中間処理業、及び収集運搬業を通じて、地球温暖化問題へ取り組み、地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

### 環境方針

1. 環境関連法規を遵守し、必要な教育、訓練を実施します
2. 事業活動における二酸化炭素排出量の削減を推進します
3. 事業活動で排出される廃棄物の削減及び、再生利用率の向上を推進します
4. 事業活動における排水量の削減を推進します
5. 事業活動における化学物質排出量を適正に管理します
6. 事業活動におけるグリーン購入、グリーン調達の比率の向上を推進します
7. 産業廃棄物処分業、及び収集運搬業において、環境負荷を低減するため業務効率化を推進します
8. 地域と連携をとり、環境保全活動に積極的に参加します

改定日：2015年11月2日

株式会社有田屋  
代表取締役 佐藤 彰

### 3.環境経営目標

短期及び中期環境目標

事業年度：7月～翌年6月 2021年度=2021年4月1日～2022年3月31日

項目		単位	基準	短期	中期		2023年度
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
電力	使用量削減	kwh	523118 基準	517887 -1%	512656 -2%	507424 -3%	502193 -4%
	CO2 排出量削減	kg-CO2	264175	261533	258891	256249	253608 -4%
ガソリン 軽油	使用量削減	L	7285 89314 基準	7208 88421 -1%	7139 87528 -2%	7066 86635 -3%	6993.6 85741.44 -4%
	CO2 排出量削減	kg-CO2	251303	248790	246277	243764	241250.88 -4%
重油	使用量削減	L	306000 基準	302940 -1%	299880 -2%	296820 -3%	293760 -4%
	CO2 排出量削減	kg-CO2	829260	820967	812674	804382	796089.6
一般廃棄物の削減		Kg	233 基準	231 -1%	228 -2%	225.6 -3%	223.68 -4%
廃プラスチックの削減		kg	46 基準	45.54 -1%	45.08 -2%	44.62 -3%	44.16 -4%
水使用量削減		m <sup>3</sup>	802 基準	794 -1%	786 -2%	778 -3%	769.92 -4%

※電力については、東北電力 H27 年度 11 月公表実排出係数 0.505(kg-co2/kwh)を用いて算出する。

軽油の排出係数は 2.26、重油の排出係数は 2.71 として算出する。

化学物質は売り上げに比例して増加するため目標設定を行わない。

## 4.環境経営計画

項目	具体的活動内容
電力使用量の削減	表示によって目標値の徹底 空調温度の適正化(冷房 28℃ 暖房 18℃) 溶融施設待機時間の短縮 クールビズ、ウォームビズの取り組み
自動車燃料の削減	効率的なルートでの回収を推進する。 営業活動の見直しを行う。 エコドライブの徹底を推進する。 車両点検の定期的な実施。
重油の削減	温度制御装置の点検 焼却炉の 24 時間稼働 焼却炉のメンテナンス 使用量を厳密測定し、削減の可能性を検討
一般廃棄物の削減	分別を徹底する。 シュレッダーにかけた廃紙をリサイクルする。 従業員が各自持ち帰る。
廃プラスチックの削減	資源としての分別を徹底する。 リサイクルに積極的に取り組む
排水量の削減	節水シールの貼り付けとポスター掲示 施設内の設備の点検 トイレ設備についての見直し
グリーン購入の向上	有害性の少ない資材を購入する 事務用品においてグリーン購入を推進する。 燃費のよい車両を購入する。 グリーン購入への情報収集
社会貢献	地域内での草刈り、ごみ拾いを継続する。 地域内での除雪活動を行う

## 5.環境目標の実績

項目		単位	2023 年度 目標	2023 年度 実績
電力	使用量削減	kwh	502193 (基準年度比-4%)	524311 -
	CO2 排出量削減	kg-CO2	253608	260058.26
ガソリン	使用量削減	L	6993.6 (基準年度比-4%)	4070.24 -
軽油	使用量削減	L	85741.44 (基準年度比-4%)	94257.80
ガソリン・軽油 合算	CO2 排出量削減	kg-CO2	241250.88	252628.08
重油	使用量削減	L	293760 (基準年度比-4%)	84000 -
	CO2 排出量削減	kg-CO2	796089.6	227640
合計 CO2	CO2 排出量	kg-CO2	1290948.48	734158.91
一般廃棄物の削減		kg	223.68 (基準年度比-4%)	61
廃プラスチックの削減		kg	44.16 (基準年度比-4%)	3
水使用量削減		m <sup>3</sup>	769.92 (基準年度比-4%)	680 -

※電力については、東北電力 2021 年度基礎排出係数 0.496(kg-co2/kwh)を用いて算出する。

軽油の排出係数は 2.58、重油の排出係数は 2.71 として算出する。

## 6.環境活動計画の取り組み結果と評価、次年度の取り組み

活動計画内容	取組結果	評価	コメント
電力使用量の削減	表示によって目標値の徹底	△	取り組みは十分 行っております が、売上増に伴 っています。
	空調温度の適正化（冷房 28℃ 暖房 18℃）	○	
	溶融施設待機時間の短縮	△	
	クールビズ、ウォームビズの取り組み	○	
自動車燃料の削減	効率的なルートでの回収を推進する	△	回収コースおよ び営業活動につ いて見直しを行 います。
	営業活動の見直しを行う	△	
	エコドライブの徹底を推進する	○	
	車両点検の定期的な実施	○	
重油の削減	温度制御装置の点検	○	取り組みは十分 に実施されまし た。
	焼却炉の 24 時間稼働	○	
	焼却炉のメンテナンス	○	
	使用量の厳密な測定	○	
一般廃棄物の削減	分別を徹底する	○	現状維持を目標 として、取り組 まれていました
	シュレッドした廃紙をリサイクルする	○	
	従業員が各自持ち帰る	○	
廃プラスチックの削減	資源としての分別の徹底	○	現状維持で取り 組まれています
	従業員が各自持ち帰る	○	
排水量の削減	節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	水回りの更新を 進めていきま す。
	施設内の整備の点検	○	
	トイレ設備についての見直し	○	
グリーン購入の向上	有害性の少ない資材を購入する	○	より一層取り組 みを拡大してい きます。
	事務用品においてグリーン購入を推進する	○	
	燃費のよい車両を購入する	○	
社会貢献	地域内での草刈り、ごみ拾いを継続する	○	達成できまし た。
	地域内での除雪活動を行う	○	

○:実行できた △:実行したが不十分 ×:実行できなかった

\*評価日:2024年6月30日

※次回評価日は、2024年10月1日

・次年度取り組み内容

1. 各種の事務機材を更新し、効率化を図る。
2. 各施設においてLED照明の導入を推進する。
3. 施設の定期メンテナンスを継続する。
4. 各種車輛について、タイヤ、エンジンなどについて定期的なメンテナンスを行い効率の良い運転を実施する。
5. 月ごとの電気、軽油、重油の使用量を厳密に測定して、使用量削減可能な点がないかを確認する。
6. 軽油について削減を行うため、コースの全面変更を実施する。
7. 水使用については節水設備を導入すること検討
8. エコマーク、グリーンマーク商品について、情報収集してグリーン購入につなげる。

## 7.緊急事態への準備、及び対応

### (1)試行・訓練の内容

有田屋、鬼柳プラントにおける消防総合訓練

### (2)実施日時

2023年11月16日(木) 16時00分～17時00分

### (3)参加人数

16名(鬼柳、稲瀬、鷹鳥羽、医療系ドライバー等複数部門の人員を含む)

### (4)担当部署・責任者

監査

### (5)試行・訓練結果の評価

今年度の総合訓練につきましては現場の従業員と共に、施設内に周知する訓練、担架での救急訓練、初期消火訓練、緊急通報訓練と連絡網確認等を実施しました。

### (6)以後の対策と手順書の必要性の有無

火災対応手順書に則った上で訓練を行いました。対応策についても有効だと考えられます。手順書の改訂は必要なく、継続使用とします

### (7)その他

近隣の北上消防署大堤分署の職員の方と共に訓練を実施しました。

## 8.環境関連法規等の遵守状況の確認

環境関連法令	対象		遵守状況
環境基本法	基本理念	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	排出から処分までの運用	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
大気汚染防止法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
騒音規制法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
振動規制法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
水質汚濁防止法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
土壌汚染対策法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
悪臭防止法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
ダイオキシン類対策特別措置法	処分施設	産業廃棄物(特別管理) 中間処理	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	運搬・処分に関する管理	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
特定家庭用機器再商品化法	運搬に関する管理	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬	遵守
岩手県 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行条例	基本理念・排出から処分までの運用	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
岩手県 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施工細則	収集運搬、中間処理実績の報告	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬、中間処理	遵守
岩手県 循環型地域社会の形成に関する条例	基本理念・排出から処分までの運用	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
消防法	火災防止・危険物の管理	事業所全体として	要改善

道路交通法	違反防止・車輛管理	事業所全体として	遵守
労働安全衛生法	労災防止・安全管理	事業所全体として	遵守
家電リサイクル法	排出、処分	事業所全体として	遵守
小型家電リサイクル法	排出、処分	事業所全体として	遵守

環境関連法規への違反はありません。また当局から違反等の指摘ありませんでした。

## 9.代表者による全体評価と見直しの結果

2023 年度のエコアクション 21 の取り組みも無事に完了しました。

2023 年度は、2019 年度を基準としての活動の 4 年目に当たります。

資源消費量のデータ記録では、前年に引き続き電力使用量と軽油の使用量が目標を達成出来ませんでした。

これ以外についてのガソリン、重油、灯油、水、一般廃棄物の自社排出量、廃プラスチックの自社排出量、グリーン購入の比率などについては、達成することが出来ました。

目標達成を出来ている部分については、計測と管理体制について、堅牢な体制作りを推し進めて参ります。

稲瀬プラントの電力使用については全社の 85%を占めておりました。稲瀬プラントにおける電力量と処理量は連続焼却を行うことで効率化を目指していきます。

また、鬼柳と鷹鳥羽プラントの電力の契約について最終保障電力のまま使用となっており割高な請求となっておりました。速やかに契約を更新して、経費節減を達成する予定です。

一廃の回収作業においては不要な車両同士の待ち合わせや非効率なルート選択などが従来、確認されておりました。

これについて 2024 年度には、一般廃棄物回収ルートを 7 ルートのうち 1 つ削減する見通しが立っております。

日々の活動を通じて、環境への取り組みを積み重ねていくことにより、よりエコアクション 21 の理念を体現した企業へと近づいていけるよう、従業員一同推進していきます。

2024 年度では鬼柳プラントでの照明の LED への取り換え、鷹鳥羽プラントにおける舗装を実施しての省エネルギー化、稲瀬プラントにおいて焼却効率上昇のための重機導入などを目指して活動してまいります。

環境経営方針、実施体制、環境経営目標については変更なく継続します。

## 10. 情報公開項目等

①法人設立年月日、資本金、売上高、組織図

法人設立年月日

昭和 49 年 2 月 10 日

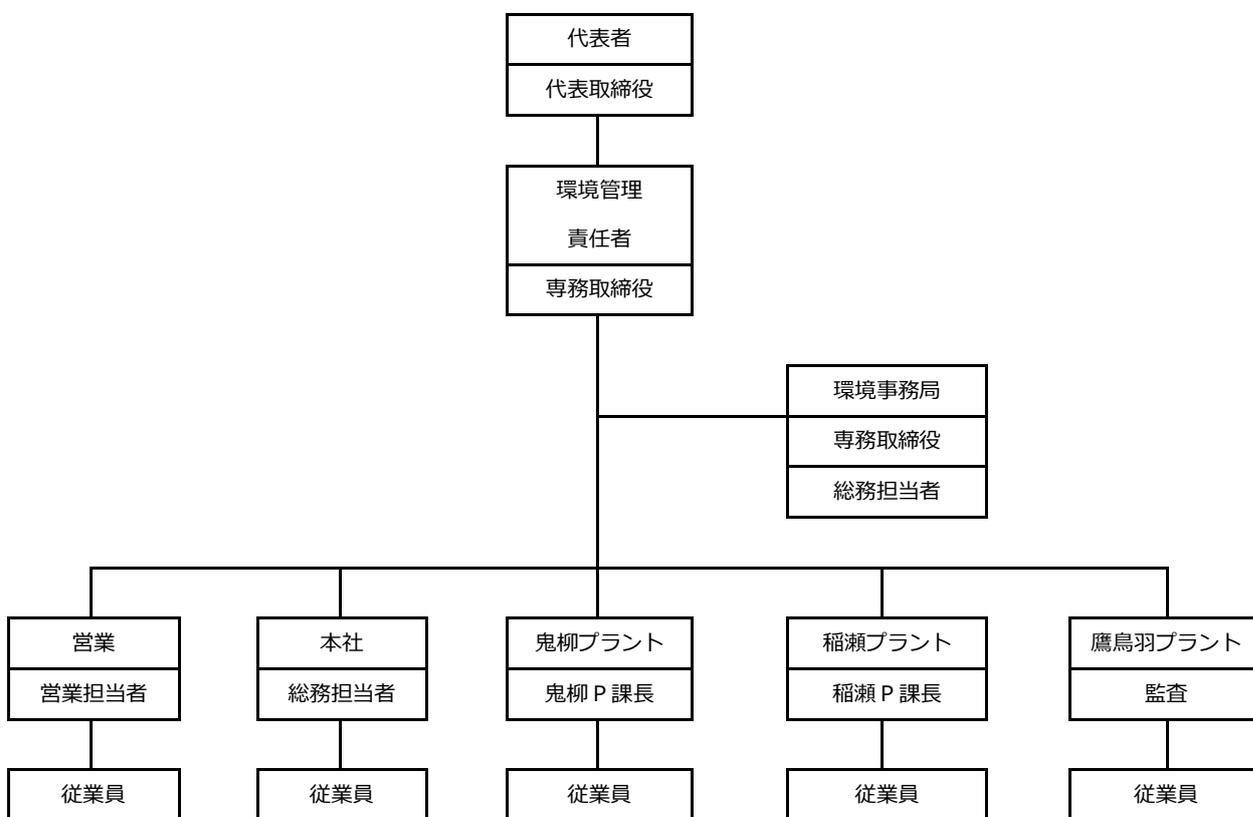
資本金

1000 万円

売上

440,52.4 万円(49 期 2022 年 7 月-2023 年 6 月期)

組織図



②産業廃棄物処理業、一般廃棄物処理業における施設などの状況

一廃回収車両

車名	積載量	構造・仕様
三菱	1,950Kg	塵芥車
三菱	4,850Kg	塵芥車

いすゞ	1,800Kg	塵芥車
いすゞ	2,850Kg	塵芥車
いすゞ	3,050Kg	塵芥車
いすゞ	2,950Kg	塵芥車
いすゞ	2,950Kg	塵芥車
トヨタ	3,000Kg	バン
日野	3,000Kg	バン
トヨタ	2,000Kg	バン
日野	4,000Kg	脱着装置付コンテナ専用車
日野	4,000Kg	脱着装置付コンテナ専用車
日野	2,600Kg	キャブオーバー
トヨタ	400Kg	バン
ダイハツ	350Kg	キャブオーバー
スバル	350Kg	キャブオーバー
ダイハツ	350Kg	バン

トヨタ	-	箱型
トヨタ	-	ステーションワゴン
トヨタ	-	箱型
トヨタ	-	箱型

以上 24 台

産廃回収車両(上記回収車両と重複あり)

車名	積載量	構造・仕様
日野	10,100	ダンプ
日野	4,000	脱着装置付コンテナ専用車
日野	4,000	脱着装置付コンテナ専用車
トヨタ	3,000	バン
日野	3,000	バン
トヨタ	3,000	バン
トヨタ	3,000	バン
ダイハツ	350	バン
トヨタ	400	バン
トヨタ	-	箱型
ダイハツ	350	キャブオーバー
日野	2,600	キャブオーバー(小型移動式クレーン)

いすゞ	1,800	塵芥車
三菱	4,850	塵芥車
いすゞ	3,050	塵芥車
いすゞ	3,050	塵芥車
いすゞ	2,950	塵芥車
トヨタ	-	箱型
トヨタ	-	箱型
トヨタ	-	幌型
トヨタ	-	ステーションワゴン

以上 21 台

処理施設の概要

施設の種類	処理廃棄物の種類	処理能力	処理方式
圧縮梱包施設	廃プラスチック・紙くず	5t/日	圧縮梱包
焼却施設Ⅰ	紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ	1.5t/日(0.188t/時間)	焼却
焼却施設Ⅱ	廃酸・廃アルカリ・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず	46.56/日(1.94t/時間)	焼却
選別施設	金属くず	138.4 m <sup>3</sup> /日(17.3 m <sup>3</sup> /時間)	選別
破砕施設	ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類	236.8t/日(29.6t/時間)	破砕
破砕固形化施設	廃プラスチック・紙くず	1.5t/時間	破砕固形化

保管施設の概要(収集運搬)

保管面積	廃棄物の種類	保管上限量
103 m <sup>2</sup>	金属くず	121 m <sup>3</sup>
50 m <sup>2</sup>	ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず	24 m <sup>3</sup>

保管施設の概要(処分)

保管施設	圧縮梱包に関するもの					
	廃棄物の種類	保管高さ(m)	保管面積(m <sup>2</sup> )	保管体積(m <sup>3</sup> )	保管重量(t)	備考
処分のための保管	廃プラスチック類	-	68.2	243	36.45	建屋内
	紙くず	-	13.68	16	3.2	屋外、容器保管
	廃プラスチック類	-	31.5	94.5	39.6	建屋内
	紙くず	-	31.5	94.5	39.6	建屋内
<b>保管施設 II</b>	<b>焼却施設 I 及び破砕・固形化に関するもの</b>	-				
	廃プラスチック(圧縮)	-	37	16	-	分別ヤード、建屋内
	廃プラスチック類(固形化)	-	18	8	-	分別ヤード、建屋内
	紙くず	-	29	16	-	分別ヤード、建屋内
	廃プラスチック類	-	31.5	94.5	-	圧縮梱包品建屋、建屋内
	紙くず	-	31.5	94.5	-	圧縮梱包品建屋、建屋内
<b>保管施設 III</b>	<b>焼却施設 I に関するもの</b>	-				
	木くず、織	-	100	125	-	焼却ド

	雑くず					ム、建屋内
<b>保管施設 IV</b>	<b>破碎施設 に関する もの</b>	-				
処分のた めの保管	ガラスく ず・コンク リートく ず・陶磁器 くず・がれ き類	3.8	263.5	414.52	-	屋外保管
		2.5	150	125	-	屋外保管
処分後の 保管	ガラスく ず・コンク リートく ず・陶磁器 くず・がれ き類	2.3	132	101.2	-	屋外保管
<b>保管施設 V</b>	<b>焼却施設 II に関す るもの</b>	-				
処分のた めの保管	廃プラス チック類	2.0	12.0	12.0	4.2	屋内、鉄筋 コンクリ ート
	木くず	2.0	8.0	8.0	4.4	屋内、鉄筋 コンクリ ート
	紙くず	1.25	7.5	4.68	1.404	屋内、鉄筋 コンクリ ート
	繊維くず	1.25	5.0	3.12	0.3744	屋内、鉄筋 コンクリ ート
	廃油	-	1.06	1.95	1.75	屋内、鋼板 製タンク
	廃酸	-	1.55	2	2	屋内樹脂 製タンク
	廃アルカ リ	-	1.55	2	2	屋内、樹脂 製タンク
処分後の 保管	燃え殻	-	6.69	8.03	-	屋内鋼板 製コンテ ナ
	ばいじん	-	6.69	8.03	-	屋内鋼板

						製コンテナ
<b>特別管理産業廃棄物</b>						
処分のための保管	感染性廃棄物	2.375	28.25	67.11	10.0	-
	廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類に限る)	-	0.44	0.39	0.31	屋内、鋼板製タンク
処分後の保管	燃え殻	-	6.60	8.03	-	屋内鋼板製コンテナ
	ばいじん	-	6.60	8.03	-	屋内鋼板製コンテナ

③産業廃棄物処理業の許可の状況

許可名	許可番号	許可の開始	許可の期限
<b>産業廃棄物収集運搬業</b>	<b>第 00312013134 号</b>	<b>令和 3 年 11 月 7 日</b>	<b>令和 8 年 11 月 6 日</b>
事業の範囲	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類、ばいじん	積替え、保管を含むもの	金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず
<b>産業廃棄物処分業</b>	<b>第 00322013134 号</b>	<b>令和 3 年 11 月 7 日</b>	<b>令和 8 年 11 月 6 日</b>
事業の範囲	取扱う産業廃棄物		
圧縮梱包	廃プラスチック類、紙くず		
焼却処理	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶		

	磁器くず		
選別処理	金属くず		
破碎処理	ラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類		
破碎固化処理	廃プラスチック類、紙くず		
<b>特別管理産業廃棄物収集運搬業</b>	<b>第 00352013134 号</b>	<b>令和 5 年 12 月 27 日</b>	<b>令和 10 年 12 月 26 日</b>
事業の範囲	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、感染性廃棄物		
<b>特別管理産業廃棄物処分業</b>	<b>第 00372013134 号</b>	<b>令和元年 8 月 3 日</b>	<b>令和 6 年 8 月 2 日</b>
事業の範囲	取扱う産業廃棄物		
焼却処理	廃油、感染性産業廃棄物		
<b>一般廃棄物収集運搬業</b>	<b>第 552 号</b>	<b>令和 6 年 7 月 4 日</b>	<b>令和 8 年 7 月 3 日</b>
積替え保管施設	廃棄物の種類	保管面積(m <sup>2</sup> )	保管量(m <sup>3</sup> )
分別ヤード	プラスチック類、ペットボトル	20	40
	新聞、雑誌、その他紙類	20	40
	ダンボール類	20	40
ビン保管コンテナ 12 個	ビン	-	24
	缶	18.3	36.6
	乾電池、蛍光灯	18.3	36.6
	リサイクル家電 4 品目	14.09	31.7
<b>一般廃棄物処分業</b>	<b>第 561 号</b>	<b>令和 4 年 12 月 10 日</b>	<b>令和 6 年 12 月 9 日</b>
施設の種類	廃棄物の種類	処理能力	処理方法
発泡スチロール溶融固化施設	発泡スチロール	60-80kg/h	溶融固化
缶選別機	缶	4.4t/日	選別
焼却施設	感染性一般廃棄物	208kg/h	焼却
処理工程図			
発泡スチロール→溶融固化→	インゴットとして売却		
缶→選別→アルミ缶→圧縮梱包→	売却		
→スチール缶→売却			
感染性一般廃棄物→焼却→燃え殻	→埋め立て施設へ		

④産業廃棄物処理実績

## (i) 収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
燃え殻	t	166.100
汚泥	t	4.775
廃油	t	0.156
廃酸	t	0.096
廃アルカリ	t	0.220
廃プラスチック	t	1,115.060
紙くず	t	75.735
木くず	t	117.001
繊維くず	t	0.000
動植物性残さ	t	127.663
金属くず	t	140.461
ガラス陶磁器くず	t	137.708
がれき類	t	20.242
ばいじん	t	107.740
引火性廃油	t	4.292
感染性廃棄物	t	379.602
合計	t	2,396.851

## (ii) 中間処理

	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理	汚泥	焼却	t	11.586
	廃油	焼却	t	3.242
	廃酸	焼却	t	15.343
	廃アルカリ	焼却	t	20.160
	廃プラスチック	焼却	t	1,063.683
	廃プラスチック	圧縮梱包	t	572.380
	紙くず	焼却	t	126.265
	木くず	焼却	t	155.865
	繊維くず	焼却	t	0.000
	動植物性残さ	焼却	t	23.750
	金属	焼却	t	0.203
	金属	選別	t	146.483
	ガラス陶磁器	焼却	t	32.078
	ガラス陶磁器	破碎	t	73.613

	がれき類	破碎	t	12.040
	引火性廃油	焼却	t	6.225
	感染性廃棄物	焼却	t	1,200.495
再資源化等 うち	金属	選別後売却	T	146.483
			t	
	146.483		t	146.483
合計			t	3,463.411

産業廃棄物 中間処理後の		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等	
	最終処分		燃え殻	埋立	t	147.27
			ばいじん	埋立	t	107.74
			廃プラスチック	埋立	t	421.00
			ガラス陶磁器	埋立	t	32.54
			がれき類	埋立	t	6.05
			小計		t	714.59
		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等	
	(再資源化等) 中間処理		金属	選別後売却	t	146.48
					t	
					t	
					t	
		小計		t	146.48	
合計			t	861.077		